

氏名	山 本 道 教
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1346 号
学位授与の日付	昭和57年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	ベーチェット病における免疫異常に関する研究 第1編 ベーチェット病の血清補体系 第2編 ベーチェット病の血清自己抗体及び免疫複合体
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 長島秀夫 教授 折田薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ベーチェット病における免疫異常の検索を目的として、血清補体系及び各種自己抗体、血中免疫複合体について検討を加えた。

第1編：ベーチェット病の血清補体系について、alternative pathwayも含めて補体価、補体成分の測定を行ない、炎症のparameterであるCRP等と比較検討する事により、ベーチェット病の補体と炎症の関連について検討を加えた。

従来報告されているCH50、C4、C3が高値であるのみならず、alternative pathwayの活性であるACH50も高値を示し、C5、C8、C9、factor Bも高値を示す事を明らかにした。またCRP等及び症状との比較検討より、一般に代表的な補体成分であるC4やC3よりもlate componentであるC5、C8、C9の方が急性期蛋白としての性格が強く、病勢のparameterとして有用である事を明らかにした。

第2編：ベーチェット病における自己免疫機序の関与の有無を明らかにするため、各種自己抗体及び免疫複合体について検討を加えた。抗リンパ球抗体は54.8%、抗核抗体は13.6%、抗サイログロブリン抗体は6.1%、抗マイクロゾーム抗体は13.9%、リウマチ因子は1.5%に陽性であった。これら自己抗体は不全型に多く認められ、いずれも低力価であった。免疫複合体はConglutinin-RIAでは42.1%に、Clq-RIAでは5.3%に陽性であった。以上より本症における自己免疫機序の関与が推定され、特に抗リンパ球抗体の陽性率が高い事より、本症をウイルス感染に関連した免疫異常の立場から再検討する必要があると考えられた。

以上よりベーチェット病における液性免疫異常の存在を明らかにした。

論文審査の結果の要旨

本研究はベーチェット病における免疫異常について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかったベーチェット病の血清補体系についてACH50, C5, C8, C9, factorBがCH50, C4, C3とともに高値をとり病勢のパラメーターに重要であることを認め、又自己免疫の関与について抗リンパ球抗体の陽性率の高いことなどを認め、自己免疫機序の関与特にウイルス感染に関連した免疫異常が考えられる結果をえ、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。